

PROFILE

泰 羅 雅 登

日本大学・大学院総合科学研究科 教授



日本大学にきてはや足かけ19年になります。日本大学は総合大学ですが、各学部が独立したキャンパスをもち各地に分散していますから、いわゆるカレッジが集合した連合大学というのが形態を表すのに正しいかもしれません。大学院総合科学研究科はどここの学部にも属さない独立研究科で、本部、校舎、オフィスは市ヶ谷にあります。といっても、市ヶ谷で研究ができるわけではありませんから、これまでと同じ、医学部に研究の場があります。ちなみに、日本大学医学部というと、お茶の水を連想される方が多いのですが、本院、学部は池袋から少し西の板橋の地にあります。この大学院は5年一環制で人間開発科学、環境科学、生命科学の3専攻からなり、その目的はHPから借りれば「人文・社会科学、理工学、生命科学の学問領域を高いレベルで統合・融合し、世界の新しい流れに即応できる創造性豊かで、俯瞰的視点をもった高度の専門的知識を総合化できる研究者を養成することを目的とします」ということになります。興味のある方は<http://www.nihon-u.ac.jp/arish/>をごらんになってください。今年度は開講初年度の特別措置で、9月入学の制度もあります。

他の大学医学部と同じく、日本大学医学部も大きく組織替えが進んでいます。87年に酒田英夫先生が東京都神経科学総合研究所から第一生理学教室の教授に赴任されるのにくつつく形で日本大学に来ましたが、酒田先生ご退職のあと、第一生理学教室と第二生理学教室とがいっしょになった大講座制の生理学教室ができ、その後しばらくして、元第一生理学教室のメンバーと臨床の脳外科

学のメンバーが中心となって、先端医学講座・応用システム神経科学部門が開設されました。私自身はいったん応用システム神経科学部門に移ったのち、本部にある総合科学研究所を経て現職ということになります。

研究は「頭頂葉」と「運動」が自分のメインテーマですが、イメージング研究が自由にできる環境にあるので、こちらは、特にターゲットを絞らず、自由な発想で研究をしています。それ以外に文科省の学術フロンティア推進事業の遂行が大きな部分を占めます。こちらは学内の研究プロジェクトに対して、文部科学省が補助をするシステムです。補助は半額程度ですから、1億円のプロジェクトであれば大学も5千万の負担をしなければなりません。幸い日本大学は体力があり、いくつもの大型プロジェクトが立ち上がっています。その中で、私たちのプロジェクトはニホンザルの研究を中心としたプロジェクトで、生理研の伊佐先生を委員長とする「ニホンザル」バイオリソースプロジェクトと連動して仕事を進めています。自分の研究の興味が広いこともあって、すこし戦線を広げすぎて空回りしている部分も正直なきにしもあらずですが、間口の広さは若い人にとっていいかなと思っています。大学に落ち着いて座っている時間がなぜかなくなってきているので、その点だけは反省してなんとかしなければと思う今日この頃です。

略歴

昭和56年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和60年3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程

昭和60年4月～62年3月

(財) 東京都神経科学総合研究
所流動研究員

昭和62年4月 日本大学医学部 (第一生理学)

平成2年11月～3年6月

米国 Johns Hopkins 大学 客員
研究員 (兼任)

平成3年7月～5年3月

米国 Minnesota 州立大学 客員
講師 (兼任)

平成16年5月

日本大学総合科学研究所 教授

平成17年4月

日本大学大学院総合科学研究科
教授